

「新たな体験活動」モデル事業実績報告書

施設名 茨城県立中央青年の家

事業の名称 (テーマ)	「新たな体験活動」モデル事業 ～「スポーツ選手になりたい！」自ら考える夢・栄光への道～
事業の目的	地域の様々な教育資源を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った、課題解決型の宿泊を伴う体験活動を推進する。実践的な「新たな体験活動」を実施し、自ら課題を設定しその解決に向けて行動できる児童・生徒の育成を図る。
事業の内容・方法	1 期 日 1回目 12月23日(土)・24日(日) 1泊2日 2回目 1月27日(土)・28日(日) 1泊2日 3回目 2月10日(土)・11日(日) 1泊2日 2 参加対象 小学校5年生3人、小学校6年生5人 計8人(男児8人) 3 参加費 全3回7,200円 2,400円/回 ※一部事前に欠席がわかる人は実費分を減額し6,320円 4 内 容 【テーマ】：キャリア教育(スポーツ分野) 多くの子ども達が習い事や部活動等を通じてスポーツに慣れ親しみ、さらには、将来「スポーツ選手」を夢見る子ども達がいる。この大きな夢を題材に、夢や目標を実現するための課題を自ら考え、解決するための方法や過程を子どもたち一人ひとりが考える。 この学びにより、情報活用・将来設計・意思決定のための能力を高め、夢や目標が変わった際にも、動じることなく次の行動ができたり、前を向いて行動できることを目指す。 5 方 法 【1回目】 ○オリエンテーション(出会い、アイスブレイク、事業の目的) ○ワークショップ「選手・監督・スタッフの方に話を聞こう！」 講師：筑波大学蹴球部小井土監督、茨城アストロプラネッツ ○研修(課題設定) ○フィールドワークの準備(訪問先の選定等) 【2回目】 ○フィールドワーク(野球とサッカーの2グループ) サッカーグループ訪問先 筑波大学蹴球部 野球グループ訪問先 ①茨城アストロプラネッツ ②茨城県立石岡第一高等学校野球部 ○研修(課題考察) 課題に対する考察を深め自分なりの答えを出す 【3回目】 ○スポーツ栄養学講座 ○報告会の準備(発表資料の完成、プレゼンテーション練習) ○活動報告会(学びの成果・報告)
成 果	今回のプログラムで、夢や目標を実現するための課題設定とその解決方法についてそれぞれが考えたことをまとめ、その成果を活動報告会でご家族・関係者に対して発表することができた。子ども達が協力し合いながら、主体的・対話的で深い学びを実践することができたのではないかと考えます。全3回6日間の日程の中で、積極的に発言する、自分の意見を伝えるなど、子ども達の心の成長を感じることができた。

様式第4号

事業報告書(1日毎)

〈施設 茨城県立中央青年の家〉

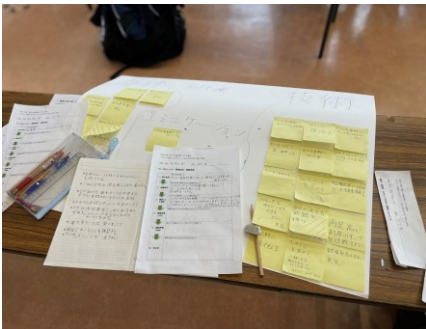
期 日	令和5年12月23日（土）																					
活動内容	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22					
※主な活動 内容や場所 等を記入	9:00①集合・はじめのつどい ②9:30体験活動（ハイキング） ③11:00研修（課題設定） ④13:30研修（ワークショップ） ⑤19:00レクリエーション 12:00食事（食堂） 17:30食事（食堂） ※活動場所は全て中央青年の家 21:00入浴 22:00就寝																					
事業トピックス ※1日の活動中で 主な活動内容及び参加者の様子等																						
①はじめのつどい 事業の目的を説明し今後の日程を確認した。 ②体験活動（仲間づくり・ハイキング） 仲間づくり、アイスブレイクのためハイキングを行った。自己紹介やコミュニケーションを取りながら雪入ふれあいの里を目指し、一致団結した。 ③研修（課題設定） ワークシートを使用し、「夢や目標」、「未来の自分・なりたい自分」について考えた。 ④研修（ワークショップ） サッカーは筑波大学蹴球部小井土監督、野球は茨城アストロプラネッツの異選手とチームスタッフの金澤氏を講師にお招きしワークショップを開催。 小井土監督からは、同部卒業生で世界で活躍する「三笥薫選手」のエピソードやご自身のプロ選手やJ1リーグのコーチなどの経験から様々な話を、異選手からはご自身がソフトバンクホークスにドラフト1位指名された時のエピソードを踏まえ、プロへの道のりをお話いただいた。 事前に質問したい内容をリストにまとめて臨んだので活発な話し合いとなった。 ⑤レクリエーション（焚火・ソロキャンプ体験等） シングルバーナーで夜食を作ったり、焚火を囲んで夢を語ったり、スタンプではそれぞれが個性を表現した。																						
成果と 課題	プロの選手や監督からの話を踏まえた対話的な学びを行い、夢や目標、未来の自分・なりたい自分について考え、そのための課題を設定することができた。また、『スカウトから技術や戦績だけでなく 普段の生活態度も見られている』という話を聞いた後、時間を守る、ゴミを拾うなど生活の中での行動に変化があった。																					

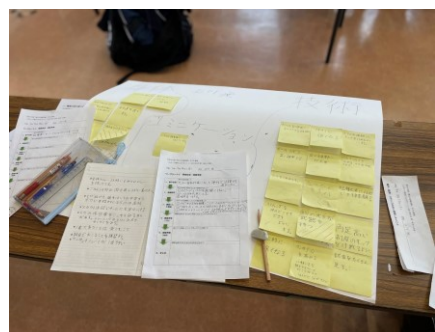


様式第4号

事業報告書(1日毎)

〈施設 茨城県立中央青年の家〉

期 日	令和5年12月24日（日）																					
活動内容	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22					
※主な活動 内容や場所 等を記入	↔ 6:30起床・部屋掃除 ↔ ↔ ①8:30研修（フィールドワークの計画） ↔ ↔ 7:30食事（食堂） ↔ 12:00食事（食堂） ↔ 13:00解散 ※活動場所は全て中央青年の家 ※8名中1名が欠席																					
事業トピックス ※1日の活動中で 主な活動内容及び参加者の様子等																						
①研修（フィールドワークの計画・準備等） 課題を解決するために何をどのように学びたいかを考え、次回のフィールドワークで学習したいことについて考察した。はじめは、各個人で考え、その後、サッカーグループと野球グループの二つに分けグループで話し合いを行った。 サッカーグループは、話し合いの結果、次の候補があげられた。 第1候補 筑波大学蹴球部の練習見学・参加、選手にインタビュー 第2候補 水戸ホーリーホックの練習見学・参加、選手にインタビュー また、一部の子から、フィジカル・瞬発力を向上するため、筑波大学陸上部「谷川聡先生（110mハードル元オリンピック）」から、走り方やトレーニングを学びたいという要望が出された。 野球グループは、話し合いの結果、次の候補があげられた。 第1候補 プロ野球（アストロプラネッツ）の練習見学・参加、選手にインタビュー 第2候補 石岡一高や常総学院など高校野球の練習見学・参加、選手にインタビュー 																						
成果と 課題	設定した課題についてより深く考察するため、何をどのように学習したいかを考え、次回のフィールドワークの候補についてグループでまとめた。前日のワークショップの影響が強くでた感が否めない一方で、「石岡一高野球部に入りたいので調べたい」、「走力をあげるため専門家の指導を受けたい」など、具体的な方法を提示する子どもがいたことは良い成果であった。																					



様式第4号

事業報告書(1日毎)

〈施設 茨城県立中央青年の家〉

期 日	令和6年1月27日（土）																					
活動内容	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22					
※主な活動 内容や場所 等を記入	9:00集合、9:15グループごとに出発 サッカーグループ ①10:00フィールドワーク（場所：筑波大学蹴球部グラウンド） 野球グループ ②10:30フィールドワーク（場所：茨城アストロプラネッツ） 野球グループ ③13:00フィールドワーク（場所：石岡一高野球部） ④19:00レクリエーション 12:00食事（弁当） 17:30食事（食堂） ※8名中1名が欠席 21:00入浴 22:00就寝																					
事業トピックス ※1日の活動中で 主な活動内容及び参加者の様子等																						
①サッカーグループフィールドワーク 筑波大学蹴球部を訪問し、午前は毎年Jリーガーを輩出するトップチームの練習見学と選手インタビュー、選手とボール蹴りなどの練習を体験し、午後は同部フィジカルコーチによるスプリントトレーニングを受けた。 ②野球グループフィールドワーク（午前） 茨城アストロプラネッツを訪問し、自主トレーニング見学と選手インタビュー、異選手とキャッチボールなどの練習を体験した。 ③野球グループフィールドワーク（午後） 茨城県立石岡第一高等学校野球部を訪問し、同部飛田監督から野球部の方針や練習方法の講話や、室内練習場など練習施設を見学した。 フィールドワークでは、両グループともに積極的に選手に話を聞いたり質問をしたり、トレーニング方法について反復練習するなど主体的に学ぶ姿勢が見られた。 ④レクリエーション（野外炊飯かまど火おこし） 翌日試合のため3名が早退するため、野外炊飯体験の一部かまどの火おこしを前倒しで行い、ホットミルクやデザートを作って交流した。																						
成果と 課題	自ら考えた方法によるフィールドワークを通じて、実際にプロを目指している学生から話を聞き将来の展望について考察を深めたり、課題にあげた「フィジカル強化（走力向上）」についてトレーニングを体験したり、目標である志望校の調査・研究など、主体的に学習に取り組むことができた。																					



様式第4号

事業報告書(1日毎)

〈施設 茨城県立中央青年の家〉

期 日	令和6年1月28日（日）
活動内容	6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22
※主な活動 内容や場所 等を記入	6:30起床・部屋掃除 ①8:30研修（課題考察）フィールドワークのふりかえり・まとめ 7:30食事（食堂） ②12:00食事（野外炊飯） 14:00解散 ※活動場所は全て中央青年の家 ※8名中1名が欠席、3名が午前で早退
事業トピックス	※1日の活動中で 主な活動内容及び参加者の様子等
①研修（課題考察）フィールドワークのふりかえり・まとめ	（1）ふりかえり・訪問先へのお礼の手紙 今回のフィールドワークのふりかえりを兼ねてそれぞれの訪問先へのお礼の手紙を書いた。何を学習することができたか、学習したことを活かして今後何をしたいかなどの抱負を手紙にまとめた。 （2）課題考察・まとめ ワークシートを使用し、前日のフィールドワーク（考察の方法）を通じて、調べたり体験したりして学んだこと（考察の結果）をまとめた。 その後、夢や目標を実現するために自ら設定した課題を解決するための方法についてまとめた。 （3）まとめの発表 対話的な学習を進めるため、課題解決の方法についてまとめた内容を一人ずつ発表してもらった。全員が必ず発表者に対して質問や意見を出すようにしてその内容をそれぞれにフィードバックした。
②野外炊飯焼きそば作り	研修施設の体験活動として、野外炊飯で焼きそば作りを体験した。3名が試合のため午前で帰り4名で行ったが、想定より早く出来上がり、回を重ねるほどにチームワークが良くなっていると感じた。
成果と課題	本プログラムの目的である、夢や目標を実現するための課題を自ら考え、解決するための方法や過程を子どもたち一人ひとりが考えることができた。情報活用・将来設計・意思決定のための能力を高めることを目標にし、試行錯誤しながらもそれぞれが考えをまとめることができたのは成果である。中には思考がまとまらず躓く場面もあったが、その都度ファシリテーターがサポートすることができたと感じる。

様式第4号

事業報告書(1日毎)

〈施設 茨城県立中央青年の家〉

期 日	令和6年2月10日(土)																									
活動内容	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22									
※主な活動 内容や場所 等を記入																										
事業トピックス	※1日の活動中で 主な活動内容及び参加者の様子等																									
①スポーツ栄養学講座 プロ野球・プロサッカー選手に食事提供をしている管理栄養士による、オンライン講座を開催した。 「何をどれだけ食べたらいいの?」というテーマにジュニアアスリートが1日に必要なエネルギー量や、瞬発力やケガ予防力などを高めるための栄養素、補食の重要性、またコンディショニングの基本として手洗いの重要性などについて学んだ。 子ども達は事前に資料を読み込んだ上、質問などを用意して臨んだので、疑問や不明点について、積極的に管理栄養士に質問していた。 さらに、それぞれ「食生活セルフチェック」を行い、後日管理栄養士からフィードバックをもらった。 ②研修(資料作成) 明日の活動報告会に向けて資料の作成を行った。 まず、どのような資料にするかを話し合い、最終的に、記載する内容は同一とし、用紙の縦横や構成、レイアウトは、それぞれが自由に考えることとした。 今回は、紙資料で手書きのため、何度も書き直しする子や、色をつけたりイラストを使ったり、それぞれ見やすい資料になるよう工夫をしていた。																										
成果と課題	課題設定では、「体を強くする」や「体力をつける」などフィジカル面をあげる子どもが多くいる。そのため、実際にプロ選手に食事を提供している講師の話に興味深く熱心に聞き、スポーツ選手にとって食事が重要であることを学んでいた。また資料作成では、それぞれが工夫を凝らしながら自分の考えをまとめられるよう主体的に取り組んでいた。																									



様式第4号

事業報告書(1日毎)

〈施設 茨城県立中央青年の家〉

期 日	令和6年2月11日（日）																					
活動内容	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22					
※主な活動 内容や場所 等を記入	↔ 6:30起床・部屋掃除 ↔ ①8:30研修（資料作成・プレゼンテーション練習） ↔ 7:30食事（食堂） ↔ 11:30食事（食堂） ↔ ②13:00活動報告会、13:40解散 ※活動場所は全て中央青年の家 ※8名中1名が欠席																					
事業トピックス ※1日の活動中で 主な活動内容及び参加者の様子等																						
①研修（資料作成・プレゼンテーション練習）																						
（1）プレゼンテーション準備																						
プレゼンテーションは、前日作成した資料を大画面モニターに表示させて行うことにした。 、どのようにしたら相手に伝わるかを話し合い、まず声の大きさや話すスピード、目線や資料の指し方などのポイントがあげられた。																						
（2）プレゼンテーション練習																						
ポイントに注意しながら、一人ずつ発表の練習を行った。聞いている子ども達は、どうしたらもっと「聞きやすいか」、「わかりやすいか」の視点で、改善点などを意見するようにした。 その後、改善点を踏まえ何度か発表の練習を繰り返す子どもや、資料を修正する子など、それぞれがより良い発表になるよう取り組んだ。																						
②活動報告会																						
ご家族・ご関係者に対して、今回のプログラムの成果を発表した。はじめに、職員から全3回6日間の活動の様子をスライドで説明し、その後一人一人が自分の考えを発表した。 緊張の中、発表し終えた子ども達の表情は、安堵とどこか自信に満ちたものであったと思う。																						
成果と 課題	今回のプログラムで、夢や目標を実現するための課題設定とその解決方法についてそれぞれが考えたことをまとめ、その成果を発表できたことは成果であり、子ども達が協力し合いながら、主体的・対話的で深い学びを実践することができたのではないかと考える。全3回6日間の日程の中で、子ども達の心の成長を感じることができるものでした。本事業で考え学習したことが、今後どのように活かされているのか、追加調査する仕組みがあるとより良い事業になるかもしれない。																					

